月の砂漠

二六「　七六五　六　」
六３「　４３２　六　」
六／０２「　３２０　六」
三／四六「　四／三二」

月の砂漠をはるばると
旅のラクダがゆきました
金と銀とのくらおいて
二つならんでゆきました

金のくらには銀のかめ
銀のくらには金のかめ
二つのかめはそれぞれに
ひもでむすんでありました

四／五六（つきの）／／４３／２３（さばくを）「六／０２（はる）「０／五六（ばると）」
二／三四（たびの）／／二三／四六（らくだが）「三／四六（ゆき）「四／三二（ました）」
３／３３（きんと）／／４３／２６（ぎんとの）「六／０２（くら）「０／五六（おいて）」
二／三四（ふたつ）／／二三／四六（ならんで）「三／四六（ゆき）「四／三二（ました）」

二／二五（ひろい）／／六七／五２（さばくを）「２／３５（ひと）「３／１２（すじに）」
五／六０（ふたり）／／五六／０２（はどこへ）「六／０２（ゆく）「０／六五（のでしょう）」
６６６（おぼろ）／／７６／５２（にけぶる）「２／３５（つき）「３／１２（の夜を）」
五／六０（いの）／／五六／０２（らくだは）「六／０２（と）「０／六五（とぼと）」

六／六六（きゅう）／／七六／五二（をこえて）「
二／三五（ゆき）「三／一二（まし）「
五／六０（だまあ）／／五六／０２（てこえて）「
六／０２（ゆき）「０／六五（ました）」

先のくらには王子さま
あとのくらにはお姫さま
乗った二人はおそろいの
白いうわぎを着てました

広い砂漠をひとすじに
二人はどこえゆくのでしょう
おぼろにけぶる月の夜を
対のらくだはとぼとぼと

砂丘をこえてゆきました
だまってこえてゆきました